

2023年度第2回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：令和5年12月26日（火）14：00～16：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：大原主査、藤田委員、北原委員、内山委員、金子委員、佐野委員、矢野委員、小田委員、
高田アドバイザー、斎藤アドバイザー、光井アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想のパイロットプランで検討すべき内容について、前回から更新された資料が提示され、検討を進めた。

(1) パイロットプランの骨格について

- ・ 重要性・緊急性では、マッチング部分を強調するため、産学連携によるイノベーション創出は、学生と社会との連携による分野横断型のイノベーション創出に変更し、ワクワクして新しい価値の創造を分野横断で体験できるように、学生チームの主体的なSDGsの研究計画を社会とマッチングしてイノベティブで最適な仕組みを実現したいの文を追加した。
- ・ カリキュラムの位置づけでは、ゼミや副専攻制度を例としていたが医療系の場合も想定し、共同の研究・創作活動やゼミナールなどの中で、テーマ別のPBLを想定しているとした。
- ・ 期待される効果では、キャリアアップ力の表記を、未来を切り拓く社会人力を身につけるにした。

(2) パイロットプラン事業化の時期と参加大学・企業等について

- ・ 事業化は、2025年度を予定し、参加候補として、本分科会委員の3大学、産学連携委員会アドバイザーの賛助会員企業の3社、本分科会アドバイザーの団体が確認された。

(3) マッチングプラットフォーム環境の整備について

- ・ プラットフォームの構築は、委員の学生チームの協力で、クラスターでサンプル開発をすすめることにした。クラスターを利用するため、2Dメタバースとの表記をしていたが2Dは取ることにして、ヘッドマウントディスプレイは必須とはしないことにした。追加記述として、チーム数（規模）や同時接続数など条件設定の検討、発表・評価の場も構築することにした。
- ・ 運営は、小委員会を設置して対応するが常時監視は行わないことにした。費用は、本協会が負担する。

(4) 共創活動プラットフォーム環境の整備について

- ・ 共創活動は、対面で行う、ネットで意見交換、メタバース利用などが考えられ、学生と企業等のチーム間で合意形成して進める。費用負担は、参加大学・企業等組織間のやり取りで検討する。
- ・ 共創活動の情報保護への対応は、研究情報について情報保護のルールを合意形成する必要がある。

(5) メタバース利用ルールの整備について

- ・ 活動に伴う心得をガイドラインとして小委員会でビデオ化し、担当教員の協力を得て学生チームのルール徹底を図る。項目は、成りすまし、著作権・知的財産権・個人情報の取扱いなどがあげられた。

(6) マッチング情報について

- ・ 学生が発信するマッチング情報の内容と掲載方法を確認した。

V. その他(今後のスケジュール)

- ・ 今回整理したパイロットプランで検討すべき内容は、「SDGs サイバーフォーラムコモンズ」の構想に基づくパイロットプランの基本的な考え方として、3月4日開催の産学連携人材ニーズ交流会で報告することになっている。